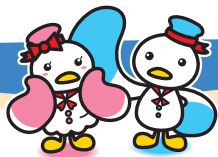


伝言板

No.43(R 7.4)



NPO 法人 北海道みなとの文化振興機構

もくじ

第 22 回理事会・通常総会……………	1	「みなとまち活性化イベントへの助成事業」の	
北日本港湾コンサルタント株式会社からの		募集について……………	9
ご寄付について……………	5	メールアドレス登録のお願い……………	11
「北海道みなとの文化研究室」の取り組み……………	6	令和 7 年度 役員・事務局・支部体制……………	12
防災エキスパート新規登録認証式・研修会……………	8	事務局連絡方法……………	12
「着ぐるみ貸付事業」の紹介（みなとのマスコット			
「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃん）……………	8		

第 22 回理事会・通常総会

第 22 回理事会・通常総会は、令和 7 年 2 月 12 日(水)ホテルライフオーポート札幌に於いて開催しました。理事会は定数 14 名の内、出席者 10 名(書面表決者 1 名)、通常総会の出席者は個人会員 166 名、団体会員 59 団体の内、委任状提出者を含めて 213 名の出席があり、会場には 91 名に出席していただきました。

通常総会に先立ち、NPO 法人栗林定正会長から「会員の皆様には、日頃より法人の活動に対し、深いご理解とご協力を賜っていることに、この場を借りて心より感謝申し上げます。特に、令和 6 年度の事業実施に際し、「みなとサポート業務」や全道各地で開催された「舟漕ぎ大会」など、港をテーマにしたイベントや「防災エキスパート支援」などの各事業にご協力をいただいた会員の皆様に、深く感謝の意を申し上げます。

本日は、北海道開発局港湾空港部部長の佐々木純様にご臨席頂いております。佐々木様には、常日頃から温かいご指導とご支援を賜っていることに、心より御礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍が徐々に収束し、多くのイベントや催事が再び開催されるようになりました。これにより、地域やコミュニティに活気が戻り、多くの方々が賑わいを楽しむことができました。こうしたイベントの復活は経済的な地域の活力を取り戻すだ

けでなく、人々の絆を深く再確認する貴重な機会となり、また、私たちの活動意義にも繋がるものであります。

本通常総会では、令和 6 年度の事業実施報告、令和 7 年度の事業計画、定款の改定、役員の選任などについて、事務局からの報告を受け、皆様にご審議をいただく予定です。

結びにあたり、本日まで出席の会員の皆様のさらなるご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。」と挨拶がありました。

ご来賓として出席していただきました、北海道開発局港湾空港部部長佐々木純様からは、「本日は、総会にお招きいただきありがとうございます。また、日頃から北海道開発行政、港湾行政へのご支援頂いていることへ感謝申し上げます。北海道の港を支える当振興機構様の 22 年に渡る活動に対して改めて敬意を表します。北海道の「みなとまちづくり」を



栗林会長挨拶

支える各港での様々な活動に対するご支援無くしては、北海道の港の維持・発展はないと思っていますところであります。我々北海道開発局は、港を造ることを主体とした組織ではありますが、造った港そのものをより良く活用していくためには、皆様の活動が必要不可欠であると思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

本日、当振興機構様のホームページを改めて見直しましたところ、ものすごく見やすく、また、多くの話題が載っていました。その中でも諸先輩方が書いた「北海道みなとまち紀行」を読んでいると、すごく心に響くものがありました。この当振興機構様の活動を十分理解するうえで、ホームページや紀行文の内容を我々現役・幹部へ紹介し、港をワンチームで北海道のために取り組んでいるということを改めて共有したいと思いました。

当振興機構様の今後ますますの発展をご祈念致しますとともに、ご出席の方々のご健勝を祈念して私からの挨拶と致します。」とご挨拶をいただきました。

通常総会は、眞田理事長を議長に選出して、第1号議案から第6号議案まで審議され、下記のとおり承認されました。

第1号議案（令和6年度事業報告）

- 1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援並びに海洋及び港に係る教育、文化活動及び支援

(1)みなとサポート業務

今年度は以下の港で実施いたしました。

①室蘭港「みなとパネル展」

開催日：令和6年7月15日(月)

来場者数：約230名

サポーター：1日2名が支援



佐々木港湾空港部長挨拶

②石狩湾新港「みなと見学会」

開催日：令和6年7月4日(木)～5日(金)

対象者数：石狩市内4小学校の児童120名

サポーター：1日4名で延べ8名が支援

③石狩湾新港「みなと見学会（石狩湾新港開港30周年記念）」

開催日：令和6年8月10日(土)

対象者数：一般市民80名

サポーター：1日4名が支援

④小樽港「みなと見学会（マリンフェスタ in 小樽）」

開催日：令和6年7月14日(日)

対象者数：一般市民100名

サポーター：1日4名が支援

⑤函館港「みなとパネル展(はこだてマリンフェスティバル)」

開催日：令和6年7月13日(土)～14日(日)

来場者数：約895名

サポーター：2日で延べ3名が支援

(2)みなとパネル展

令和6年9月26日(木)「ザ・シンポジウムみなと in 紋別」の開催に協賛し、シンポジウム会場(紋別市文化会館)において、紋別港に関連するトピックや取扱貨物量、立地企業、輸出促進および観光振興の取り組みに加え、「みなとオアシスもんべつ」やNPOの活動状況、設立に至る経緯などを紹介し、シンポジウムに参加された多くの方にご覧いただきました。

(3)広報誌「伝言板」の発刊、ホームページの充実、メールニュースの配信

41号を令和6年4月に、42号を令和6年11月に発刊しました。

また、ホームページの改善と充実を図ったほか、

令和6年4月よりイベント開催案内などの情報をよりタイムリーに伝えるツールとしてメールニュースの配信を開始しました。

(4)着ぐるみ(「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん)貸付事業(有償)

今年度は、根室港でのイベント1件に貸与しました。

①根室港「海とみなとパネル展」

開催日：令和6年7月14日(日)

(5)記念グッズの配布(無償)

今年度は、開発建設部や「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」から要望のあった10箇所にて2,650セットを配布しました(残950セット)。

なお、配布したノート及びふせんには、HPへ誘導するQRコードを掲載しています。

(6)北海道みなとの文化研究室

今年度の活動としては、当研究室のメンバーを中心に、みなとまちの今と歴史を街歩き形式で紹介する「北海道みなとまち紀行」や道内各港での「イベント情報」を当NPOのホームページを通じて配信しました。また、小学校の社会科副読本の資料更新や子供たちへの港に関する学習支援コンテンツづくりに向けた取り組みを行いました。

2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援

(1)防災エキスパート支援

①北海道開発局防災エキスパート(港湾・空港・漁港)の認証式及び研修会

今年度の防災エキスパートの認証式は令和6年11月21日(木)北海道開発局港湾空港部長室で行われ、新規登録者6名へ登録通知証の交付が行われました。

研修会は北海道開発局10階会議室において、当法人の眞田理事長ほか防災エキスパート30名と港湾空港部と農業水産部から4名の課長が参加して開催されました。最初に、主催者である北海道開発局佐々木港湾空港部長のご挨拶の後、空港・防災課の加藤上席専門官より、防災エキスパート制度についてと空港・防災課からの情報提供がありました。その後、時田港湾保安管理官の司会により意見交換が行われ、発災時に防災エキスパートに求められていることや、その実行に際しての課題に関する意見が出されました。

②令和6年度 稚内港大規模地震・津波総合防災訓練

令和6年8月31日(土)に北海道開発局、稚内開発建設部、稚内市の主催による「稚内港大規模地震・津波総合防災訓練」が稚内港末広埠頭東岸壁で開催されました。本訓練には、18の機関・団体が参加し、当NPO法人からも防災エキスパート4名が参加しました。

3 定款の事業名 特定非営利活動に係る事業に関する情報収集及び調査研究

(1)みなと座談会

令和6年9月17日(火)に、函館市の津軽海峡フェリーターミナルVIP会議室において、北海道みなとまちづくり女性ネットワーク総会(年次報告会)、前国土交通省北陸地方整備局長の遠藤仁彦様の特別講演の後、第19回みなと座談会を開催しました。座談会では、「みんなと楽しく魅力あるみなとまちづくり」をテーマとして活発な意見交換がなされました。

翌18日(水)には、当日朝に豪華客船「ウエステルダム」が着岸した函館クルーズターミナルを視察した後、函館港湾事務所の案内による「みなと見学会」が行われました。

(2)ネットワーク強化

「北海道みなとまちづくり女性ネットワーク」との連携強化に努めるとともに、「北海道みなとオアシス活性化協議会」に参加し、各オアシス相互の情報交換や協議会加盟団体との意見交換により情報を得ています。

(3)情報収集

(一社)ウォーターフロント協会のホームページから、みなとオアシスに関する各地活動状況、及び北海道市民活動促進センターより発信される市民活動状況やNPO運営等に関する情報を得ています。また、(一社)ウォーターフロント協会に入会し、港湾におけるウォーターフロント開発事業に関する情報を得ています。

4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業

(1)助成活動

今年度は12団体から12件の申請がありました。採択事業を決定するため、5月21日午後から(一社)寒地港湾空港技術研究センター会議室にて「評価審査委員会」を開催しました。審査の結果、地域住民との連携、過去の開催実績などを考

慮し、申請のありました12件の内11件の事業を採択し、5万円から15万円を助成しました。

第2号議案（令和6年度収支決算報告並びに監査報告）

第3号議案（令和7年度事業計画）

- 1 定款の事業名 港への理解と利用促進に係わる広報活動及び支援並びに海洋及び港に係る教育、文化活動及び支援
 - (1)みなとサポート業務
 - (2)みなとパネル展
 - (3)広報誌「伝言板」の発刊、ホームページの充実、メールニュースの配信
 - (4)着ぐるみ（「ぼーとん」くん・「べいくりん」ちゃん）貸付事業（有償）
 - (5)記念グッズの配布（無償）
 - (6)北海道みなとの文化研究室
- 2 定款の事業名 港湾・空港・漁港の防災業務及び災害復旧に係る活動・支援
 - (1)防災エキスパート支援
- 3 定款の事業名 特定非営利活動に係る事業に関する情報収集及び調査研究
 - (1)みなと座談会
 - (2)ネットワーク強化
 - (3)情報収集
- 4 定款の事業名 その他、目的を達成するために必要な事業
 - (1)助成活動

第4号議案（令和7年度収支予算計画）

第5号議案（定款の改定）

北海道みなとの文化研究室の設立に際し、定款にその位置づけを明確に記載する必要が生じ、「定款第7章 第39条」に以下の内容を追加することとしました。なお、現行の定款 第7章 第39条以降は、繰り下げることとなります。

第7章 北海道みなとの文化研究室 （北海道みなとの文化研究室）

第39条 この法人に、「海洋及び港に係る教育、文化活動及び支援」事業を行う北海道みなとの文化研究室を置く。

2 北海道みなとの文化研究室には、室長及び所要の室員を置く。

3 室長及び室員は、理事長が任免する。

第6号議案（役員の選任について 敬称略）

今年度、理事2名の退任と2名の新任、及び理事12名の方の再任並びに、監事2名の退任と2名の新任が承認されました。

なお、任期は、令和7年2月26日から令和9年2月25日までです。

理 事	栗林 定正（再任）
〃	眞田 仁（再任）
〃	蝦名 大也（退任）
〃	青山 剛（新任）
〃	藤田 幸洋（再任）
〃	高橋 喜一（再任）
〃	上原 泰正（再任）
〃	中村 信之（再任）
〃	栗田 悟（再任）
〃	川合 紀章（再任）
〃	笹島 隆彦（退任）
〃	中島 靖（再任）
〃	魚住 聡（再任）
〃	遠藤 仁彦（新任）
〃	大西 育子（再任）
〃	片石 温美（再任）
監 事	吉本 靖俊（退任）
〃	桑島 隆一（新任）
〃	中内 勲（退任）
〃	田川 人士（新任）



理事会



総会

感謝状贈呈

本年、創立 50 周年を迎えられた北日本港湾コンサルタント株式会社様より、NPO 北海道みなとの文化振興機構の今後の活動を支援するために、100 万円の寄付をいただきました。

寄付金の贈呈式は、北海道開発局の佐々木港湾空

港部長様のご臨席のもと、令和 7 年 2 月 12 日(水) 14 時より北海道開発局港湾空港部長室にて執り行われました。

改めまして、通常総会終了後に、当法人の栗林会長より、北日本港湾コンサルタント株式会社の代表取締役社長である眞田仁様に感謝状を贈呈しました。



北日本港湾コンサルタント株式会社からのご寄付について

北日本港湾コンサルタント株式会社は創立 50 周年を迎え、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構の今後の活動を支援するために寄付を行いました。

寄付金の贈呈式は、北海道開発局の佐々木港湾空港部長のご臨席のもと、令和 7 年 2 月 12 日(水)14 時より北海道開発局港湾空港部長室にて行われました。この式典では、北日本港湾コンサルタント株式会社の眞田代表取締役社長が NPO 法人北海道みなとの文化振興機構の栗林会長に寄付金を手渡しました。

当法人の活動に対するご理解とご支援に感謝し、今後の活動に一層の意欲を持って取り組んでまいります。



「北海道みなとの文化研究室」の取り組み

読者の皆様、当研究室の新企画「北海道みなとまち紀行」はご覧になられたでしょうか。前々号（No.41）の伝言板では、同紀行の発刊の経緯と発刊済みの第1号から第5号の概要についてご紹介しました。本号ではその後発刊されました第6号から第10号についてご紹介しますので、是非一度全編をお読みいただき、愛読者になっていただければ幸いです。

「北海道みなとまち紀行」は当機構のホームページにコーナーを設置し掲載されています。今回ご紹介する第6号以降については、新たに2名の執筆者が加わり、第6号と第10号は当研究室調査役の平澤充成さん、第8号と第9号は同相談役の関野高志さん、そして、第7号は第1号から第5号までを担当した同相談役の関口信一郎さんに執筆していただきました。



○第6号 ■ 苫小牧編②（R6.6.30 発行）

♪しほったばかりの夕陽の赤が〜で始まる吉田拓郎が歌う名曲『落陽』。この歌詞には現在の苫小牧港西港区から仙台行きのフェリーに乗って旅の帰途に就く“若者”と旅の途中に出会った“じいさん”との一期一会の交わりの情景がつづられています。第6号では、この『落陽』にインスピレーションを受け、JR 苫小牧駅から一昨年就航50周年を迎えたフェリーが着岸する苫小牧西港フェリーターミナルまで、みなとまち・苫小牧の時代のうつろい、季節のうつろいの中を妄想しながら巡った紀行文です。



○第7号 ■ 根室編①（R6.7.15 発行）

この旅は釧路からレンタカーで根室に入り、根室市役所に近い「喫茶どりあん」というお店で根室のソウルフードといわれるエスカロップをいただいてから、半島を跨いで太平洋側の花咲港の近くにある「根室市歴史と自然の資料館」で学芸主査の猪熊樹人さんにお会いして資料館を見学し、花咲灯台の下^{のくまじい}の海岸に露出する国の天然記念物に指定されている「根室 車石」に立ち寄ります。そこからもと来た道を戻り、オホーツク海側の根室港を望む高台にある「金刀比羅神社」に参詣してから、明治以来、地元^{のくまじい}に愛される美味しい日本酒を造り続けている「碓氷勝三郎商店」に寄り、「回転寿司 根室花まる 根室店」で夕食をとる行程で巡った紀行文です。





○第8号■釧路編② (R6.9.30 発行)

この旅は2日間にわたって釧路を訪問し、一日目は毎年8月上旬に開催される「くしろ港まつり」に合わせて幣舞橋周辺の釧路川で行われる「釧路港舟漕ぎ大会」を見学、二日目はウォーターフロントの代表的な施設である「釧路フィッシャーマンズワーフ MOO & EGG」、及びそれに隣接する「北海道立釧路芸術館」の見学を行った後、春採湖畔の「竹老園東家総本店」で昼食をとり、午後からは「米町ふるさと館」、釧路市郊外の「釧路市湿原展望台」、「釧路湿原美術館」を見学した後、釧路駅近くの「浦田菓子舗」に立ち寄り、その後、「和商市場」で夕食をとるという長編の紀行文です。



○第9号■函館編② (R6.11.30 発行)

この旅は函館の西部地区バイエリアの「金森赤レンガ倉庫」や「はこだて明治館」、「高田屋嘉兵衛資料館」などの歴史的施設や「緑の島」を見学したのち、「ラッキーピエロ十字街銀座店」で昼食をとり、

午後からは近代港湾整備の先駆者である廣井勇博士の調査・設計により進められた「函館漁港船入澗石積み防波堤」、「函館市国際水産・海洋総合センター」や若松地区の「函館市青函連絡船記念館摩周丸」及び「旅客船ふ頭」を見学したのち、「五稜郭」を巡るという長編の紀行文です。



○第10号■石狩編① (R7.1.31 発行)

道都・札幌にほど近い石狩には港が二つあることはご存じでしょうか？ その一つは小樽市にもまたがる重要港湾・石狩湾新港ですが、もう一つ地方港湾の石狩港があります。この旅は、北海道の母なる大河、石狩川の河口付近にある石狩港から石狩湾新港に向かう約15kmを徒歩で巡る旅です。石狩へはJR札幌駅近くのバス停留所「北7条西1丁目」から厚田行きの路線バスに乗り、創成川沿いの柳やポプラ並木、茨戸湖面のきらめきなどを眺めながら1時間ほど揺られていると降車予定の「矢臼場」停留所に到着します。

ここからの徒歩の旅は、まず石狩川の左岸側に沿って歩き、旅の最北端で石狩港とも関連深い石狩灯台まで行った後、反転。今度は手稲山を望みながら海岸沿いの道を進み、石狩湾新港の掘り込み部にあるコンテナターミナルまで行くというコースを晩秋の情緒あふれる景色とともに巡る紀行文です。

以上、「北海道みなとまち紀行」には全号に散策や巡ったルートマップと訪問した各施設等のミニ情報を添付していますので、みなとまち歩きガイドブックとしてもお薦めの内容となっています。第11号以降にもご期待ください。

北海道みなとの文化振興機構ホームページ

<https://minatobunka-npo.info/>

または「北海道みなとの文化」で検索

防災エキスパート新規登録認証式・研修会

○新規登録認証式

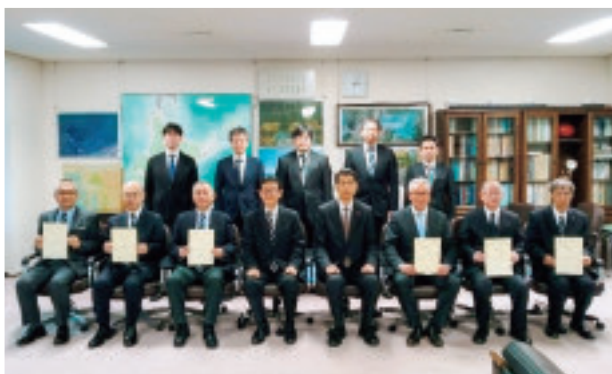
令和6年11月21日(木)北海道開発局港湾空港部長室において防災エキスパート新規登録者認証式が行われました。今年度は6名の方が港湾空港部幹部、農業水産部水産課長と当NPO法人眞田理事長が立会の中、佐々木港湾空港部長より登録通知証の交付を受けました。これにより今年度の防災エキスパート登録者は40名となり今後本体制で活動していくことになります。

○防災エキスパート研修会

防災エキスパート新規登録者認証式に引き続き、

札幌第1合同庁舎10階共用第1会議室において防災エキスパート31名が参加し北海道開発局研修会が開催されました。

佐々木港湾空港部長のあいさつの後、空港・防災課の加藤上席専門官(港湾防災)より「防災エキスパート制度について」、「港湾空港部からの情報提供」の講習の後、時田港湾保安全管理官の司会により意見交換が行われ、防災エキスパートメンバーから寄せられた「「防災エキスパート」(港湾・空港・漁港)ができること」を題材に活発な意見交換が行われました。



防災エキスパート新規登録者認証式



北海道開発局防災エキスパート研修会

「着ぐるみ貸付事業」の紹介 (みなとのマスコット「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃん)

北海道のみなとのキャラクター「ぽーとん」くん、「べいくりん」ちゃんの着ぐるみは、みなとが担う役割を多くの皆様にご理解いただくとともに、海やみなとに集う皆様が楽しく過ごしていただくお手伝いキャラクターとして制作しました。海の上を自由に謳歌するかもめを題材に「小さな赤ちゃんかもめ」をイメージした可愛い着ぐるみです。

平成11年に1号を制作し、好評を得たことから2号、3号と制作、平成25年に4号を制作、現在4組を保有しています。

令和6年は、釧路開発建設部根室港湾事務所にお



いて、7月14日(日)に「海の月間」行事の一環として根室市で開催される「海のフェスティバル」(主催:根室港海の日の会)における「海とみなとパネル展」にて、「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃんが参加しました。

令和5、6年は根室港湾事務所のみでのご利用となりましたが、今年は盛大にイベントが開催され、多くの皆様にご利用いただけることを期待しています。なお、「ぼーとん」くん、「べいくりん」ちゃんは、NPO 法人北海道みなとの文化振興機構が商標登録しており、着ぐるみの使用は有料とさせていただいております。



「みなとまち活性化イベントへの助成事業」の募集について

NPO 法人「北海道みなとの文化振興機構」では、道内のみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等、みなとまちで実施される様々な事業を支援し、さらなる「みなとまちの活性化」に寄与することを目的に助成事業の募集を行います。令和7年度の助成事業応募要領は下記のとおりです。

助成事業募集要領

(1)応募要件

道内でみなとまちの活性化をめざし企画・実施されるイベント等において令和7年度に実施予定の本助成を希望する事業とする。

- ①みなとへの理解と利用促進に係る広報・体験学習活動
- ②海岸・みなとの清掃、植樹等の美化活動
- ③海洋及びみなとに係る教育、文化活動

(2)募集期間および応募方法

募集期間は令和7年4月2日(水)から5月7日(水)までとし、助成を希望する

団体は必要事項を記入の上、別途応募様式を提出する。

(3)助成金額

1件当たり助成金額は15万円を限度とし、みなとの活性化の効果の大きいと考えられる数件を選定する。

(4)評価審査委員会の設置

応募された助成希望の事業につて、審査を行う機関として設置する。

評価審査委員会は当 NPO 法人理事長の指名によ

り構成する。

評価審査委員会の事務は当 NPO 法人事務局が行う。

評価審査委員会は令和7年5月中旬を目途に開催し、助成を希望する事業について審査し、採択する。

審査結果については、5月下旬を目途に電子メールまたは郵送で通知する。また、当 NPO 法人のホームページ上で公表する。

(5)助成金の支払い

当機構の決定通知を受け、申請者は請求書を当機構に提出する。

助成金については、助成を受ける団体等に対し、イベント等の開催の2週間前までに支払う。

(6)助成を受ける団体の義務

活動を実施するにあたって、「NPO 北海道みなとの文化振興機構助成」を受けている旨を明示すること。

(7)報告

実施結果については、実施後速やかに別途報告様式により提出する。

応募様式

令和 年 月 日

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 御中

団 体 名

代表者名

令和 7 年度 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成事業に応募します。

1 事業名	
2 事業の目的	
3 事業の内容と課題等	
4 共催団体および支援団体	
5 開催場所	
6 開催日時	
7 総予算額（見込み）、本助成金の要望金額および内容	
8 スタッフ人数	
9 参加者見込み人数	
10 過去の開催実績	
11 連絡先	氏 名： E-mail： T E L：

【提出先】（なるべく電子メールでの提出をお願いします）

〒001-0011 札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2 番 17 号 セントラル札幌北ビル 5 階
寒地港湾空港技術研究センター気付
NPO 法人北海道みなとの文化振興機構
担当 上田 裕章
TEL. 011-747-1688
Mail bunka-npo@kanchi.or.jp

報告様式

令和 年 月 日

NPO 法人北海道みなとの文化振興機構 御中

団 体 名

代表者名

令和7年度 NPO 法人北海道みなとの文化振興機構助成事業により、下記のとおり事業を実施しましたので報告します。

1 事業名	
2 事業の内容	
3 共催団体および支援団体等	
4 開催場所	
5 開催日時	
6 スタッフ人数	
7 参加者人数	
8 総支出額、本助成金の使用 内容	

※実施状況のわかる写真を添付

メールアドレス登録のお願い

いつも当機構の活動にご理解とご賛同を賜り、誠にありがとうございます。

昨年から Web サイトの更新情報などをメールニュースにて配信しています。

これは会員の皆様への情報発信の迅速化を図るとともに、活動をより活性化することを目的に進めているものです。

本ページの QR コードまたは Web サイトのトップページより、メールアドレスの登録フォームにアクセスしていただき、お名前とメールアドレスをご記入ください。

よろしくお願い申し上げます。





令和7年度 役員・事務局・支部体制

令和7年度「特定非営利法人北海道みなとの文化振興機構」役員・事務局・支部体制について

役員

役職	氏名
会長	栗林 定正
理事長	眞田 仁
理事	青山 剛
理事	藤田 幸洋
理事	高橋 喜一
理事	上原 泰正
理事	中村 信之
理事	栗田 悟
理事	川合 紀章
理事	中島 靖
理事	魚住 聡
理事	遠藤 仁彦
理事	大西 育子
理事	片石 温美
監事	桑島 隆一
監事	田川 人土

事務局

役職	氏名
事務局長	上田 裕章
事務局次長	高木 哲夫
事務局次長	宮部 秀一
事務局次長	渥美 洋一
事務局次長	鈴木 一行
事務局次長	秋浜 政弘
事務局次長	石川 洋一
事務局次長	飯田 誠
事務局次長	牧田 佳巳
事務局次長	栗林 則夫
事務局次長	井元 忠博
事務局次長	鈴木 泰弘
事務局次長	増田 亨
事務局次長	斉藤 敦志
事務局次長	松尾 義雄

支部

(敬称略)

役職	氏名
札幌支部長	千葉 不二夫
札幌支部次長	今林 弘
函館支部長	川村 求
函館支部次長	中村 篤
苫小牧支部長	秋葉 洋一
苫小牧支部次長	竹腰 隆志
釧路支部長	佐藤 浩彰
釧路支部次長	伊藤 文彦



事務局連絡方法

当機構事務局への連絡は、下記のいずれかでお願いします。

Tel : 011-727-3710 Fax : 011-727-3710

E-mail : bunka-npo@kanchi.or.jp

なお、事務局は、常駐体制でないことから、ご返事を差し上げるまで一週間程お時間をいただくこととございますので、何卒ご了承をお願いします。

また、当機構の活動状況は、ホームページでご覧になることができます。

<https://www.minatobunka-npo.info/>

特定非営利活動法人 北海道みなとの文化振興機構

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号
セントラル札幌北ビル5F